

1. 計画の背景・目的

- 首都直下型地震が今後30年に発生する確率は、70%。
- 人口・資産、あらゆる機能が集積する首都圏で甚大な被害が危惧。

首都直下地震の被害想定

- ・建物全壊 約85万棟
 - ・死者数 約11000人
 - ・経済被害 約112兆円等
- ※中央防災会議資料(H17.7)より

2. 八方向作戦

- 地震発生の際、都心に向け八方向毎に優先啓開ルートを設定し、一斉に道路啓開を開始。(八方向作戦)
- 人命救助の72時間の壁を意識し、発災後48時間以内に各方向最低1ルートは道路啓開を完了することを目標



図 首都直下地震に備えた「八方向作戦」による道路啓開

3. 道路啓開

- 道路啓開とは、緊急車両等の通行のため、早急に最低限の瓦礫を処理し、簡易な段差修正により救援ルートを開けることをいう。
- 大規模災害では応急・緊急復旧を実施する前に救援ルートを確保する啓開が必要。



4. 国土交通省 北首都国道事務所の「八方向作戦(北方向)」

- 北方向の責任啓開事務所として、主に国道4号の道路啓開を担当。
 - 主な課題は、啓開ルート上の車・人の流入・集中。
 - 発災後、国道4号の被害状況を早急に把握することが必要。
- (発災後の国道4号の車両の滞留・道路施設の損傷・液状化等)

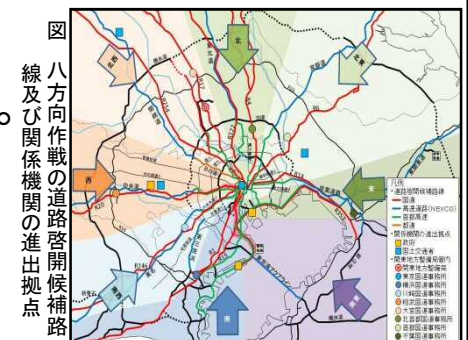


図 八方向作戦の道路啓開候補補路線及び関係機関の進出拠点

【参考】道路啓開についての事例紹介（実例：東日本大震災）国土交通省

1. 東日本大震災における「くしの歯作戦」

- 東日本大震災で、三陸沿岸地区の救助救援のため、「くしの歯作戦」にて道路啓開実施。
- 道路啓開は72時間で概ね完了し、「くしの歯作戦」の有効性が確認された。



被災直後



道路啓開後

国道4号から各路線経由で
国道45号及び国道6号までの啓開状況



【※くしの歯作戦とは】

- 津波被害が想定される沿岸部への進出のため、「くしの歯型」救援ルートを設定。
- 緊急輸送道路を「くしの歯型」に通行確保。

●「くしの歯型」救援ルートの復旧ステップ

- ステップ①: 東北道・国道4号の縦軸ラインを確保
- ステップ②: 縦軸からの横軸ラインを確保
- ステップ③: 沿岸部の縦軸を確保(応急復旧完了)

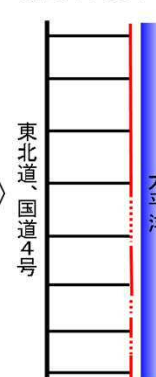
<第1ステップ>



<第2ステップ>



<第3ステップ>



くしの歯作戦(三陸沿岸地区)